

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植水小学校】

①		今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力		(1)自分の考えをもち、根拠を基に自分の言葉で表現する資質・能力 (2)主体的に課題に取り組み、他者と対話しながら自分の考えを広げたり深めたりする 資質・能力 (3)学習の基盤となる基礎学力・習慣を身に付ける資質・能力	
		↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】		(1)自分の考えをもつ時間を設定し、文章中の言葉、図、表などをもとに自分の考えを表現する授業の実施。【各単元で 1回以上】 (2)児童が課題を設定し、友達と対話しながら考えを広げたり深めたりする学習場面を設定【各単元で1回以上】 (3)各教科の基礎的・基本的な問題に繰り返し取り組んだり確認したりする場面を設定【各単元で1回以上】	

⑤		年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)	
		↓	
今年度の成果と 次年度の課題			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)	
--	--

②		全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	評価(※)	国語の領域別では、「C読むこと」の「情報の扱い方に關する事項」の平均正答率は、全国・県平均を上回った。一方で、知識・技能に關する「言葉の特徵や使い方に關する事項」の正答率はやや低い。設問別では、漢字や「資料を引用して自分の考えをまとめる記述」など、言語事項の定着や特定の指定条件(引用ルール等)を守って構成する記述問題に課題が見られる。 算数の領域別では、「A数と計算、Dデータの活用」の平均正答率は全国や県と比べて平均的で安定した定着が見られる。設問別では、「小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数を見つけることができるかどうかをみる問題」の正答率が9割を超えていた。一方で「思考・判断・表現」に關する問題の正答率が割合を切り全国や県と比べても正答率が低い。特に「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して立方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、満たない数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率は全国や県と大きな差が開いている。	
		↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態		国語については、文章の読み取りはできているが、基本的な知識(漢字や言葉の使い方)の定着が不十分だと考えられる。宿題等の家庭学習だけでなく、日頃の授業から正しく漢字を書いて文章を書いたり新しい言葉を実際に使ってみたりする経験が必要。算数では、知識そのものは理解しているが、それを「根拠を持って説明する」「自分の経験や言葉と組み合わせる」などの思考を表現する場面が不足が見られる。また、どちらの教科でも記述式での回答になると無回答の割合が多くなる傾向になる、どのように書けばよいのか分からないと感じている児童への指導が必要。	

③		中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	(1)(2)については、課題に対して自分の考えをもち、友達と共有する場面を設けたことで自分から積極的に考えを伝えようとしている児童の姿が見られる。一方で、教師や友達の手助けがないと自分の考えを表現できない児童もいるので、自分の考えをもち、整理し、相手に伝えて、もう一度考えを整理する学習過程を繰り返し行い、子どもたちの学習の仕方として定着していく必要がある。また(3)の取り組みは、全国学力・学習状況調査の結果からも分かるように特に漢字の学習や算数で扱う用語の意味など知識・技能に關する学習事項を丁寧に指導していく。	
	B		
		↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態		変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)	
--	--